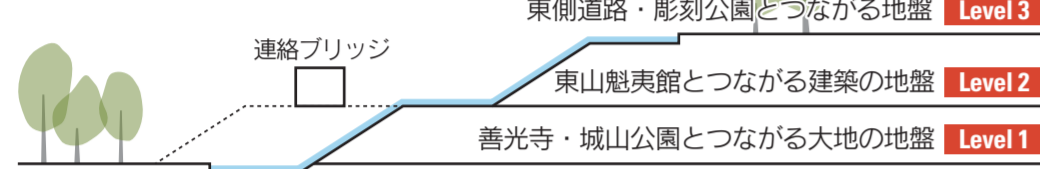


「つながる」美術館

— 地域とつながる、人とアートがつながる、善光寺とつながる、地形とつながる —

開館から 50 年を経て今回の再整備を迎えることとなった信濃美術館ですが、信州ゆかりのアートや山と自然をテーマにした作品をコレクションする美術館としての各種機能拡充はもちろんのこと、城山公園一体を整備エリアとした修景計画が重視されています。我々の計画では、敷地東側「ながの百景」の一つである市道を挟んだ彫刻広場や神社の杜と、西側の善光寺に至る地形の 12m に及ぶ高低差を活用することで、施設が建築として突出することなく、かつ、それぞれの敷地を一体的に結びつける計画としています。南側道路との接続を含めた 3 つのレベルに対応した床レベルを設定することで、隣接する東山魁夷館との連携に加えて、多方面からのスムーズなアプローチと、施設の多様な利活用に対応できる動線計画を可能にしました。

敷地の高低差を利用した 3 つのレベル



ランドスケープ・ミュージアム

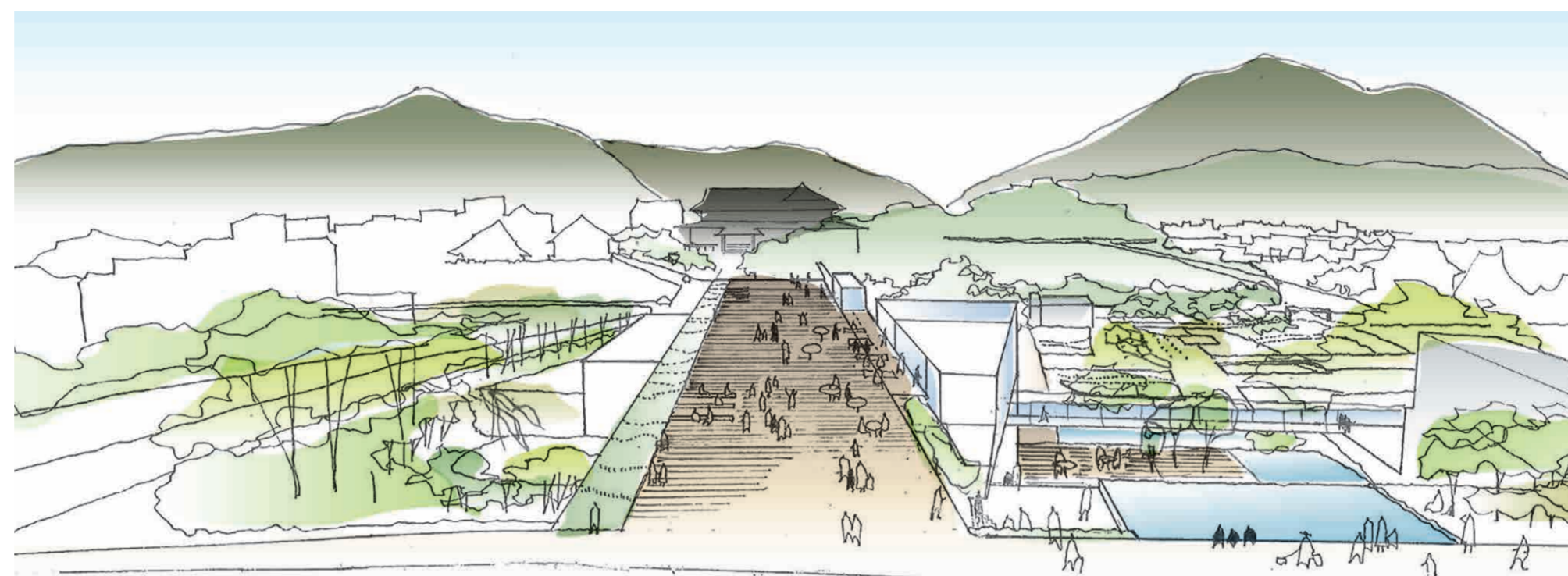
敷地の高低差を活かしながら、城山公園の大きな地形の復元による信州の山並みと一体化したランドスケープの創出を目指します。敷地および周辺の土地の文脈を生かし、下記の手法などを通じて、ランドスケープと建築が融合した空間・環境をつくります。

- 善光寺平用水を含む長野市の水路ネットワークと連携した水空間の演出と、水による地形の顕在化。
- 雨水や井水の積極的な利用による敷地全体の水循環システムの創出と、緑地との連携による城山公園エリア全域におけるランドスケープインフラの構築。
- 城山公園及び善光寺の緑と繋がる高木、低木、地被植物の複層的な緑化による生物多様性の実現。
- 多彩な緑地による建築周りの温熱環境の調整。また、継続的に良好な環境を維持できる植栽計画。
- 散策、休憩スペース、遊び場としての屋外空間の創出。

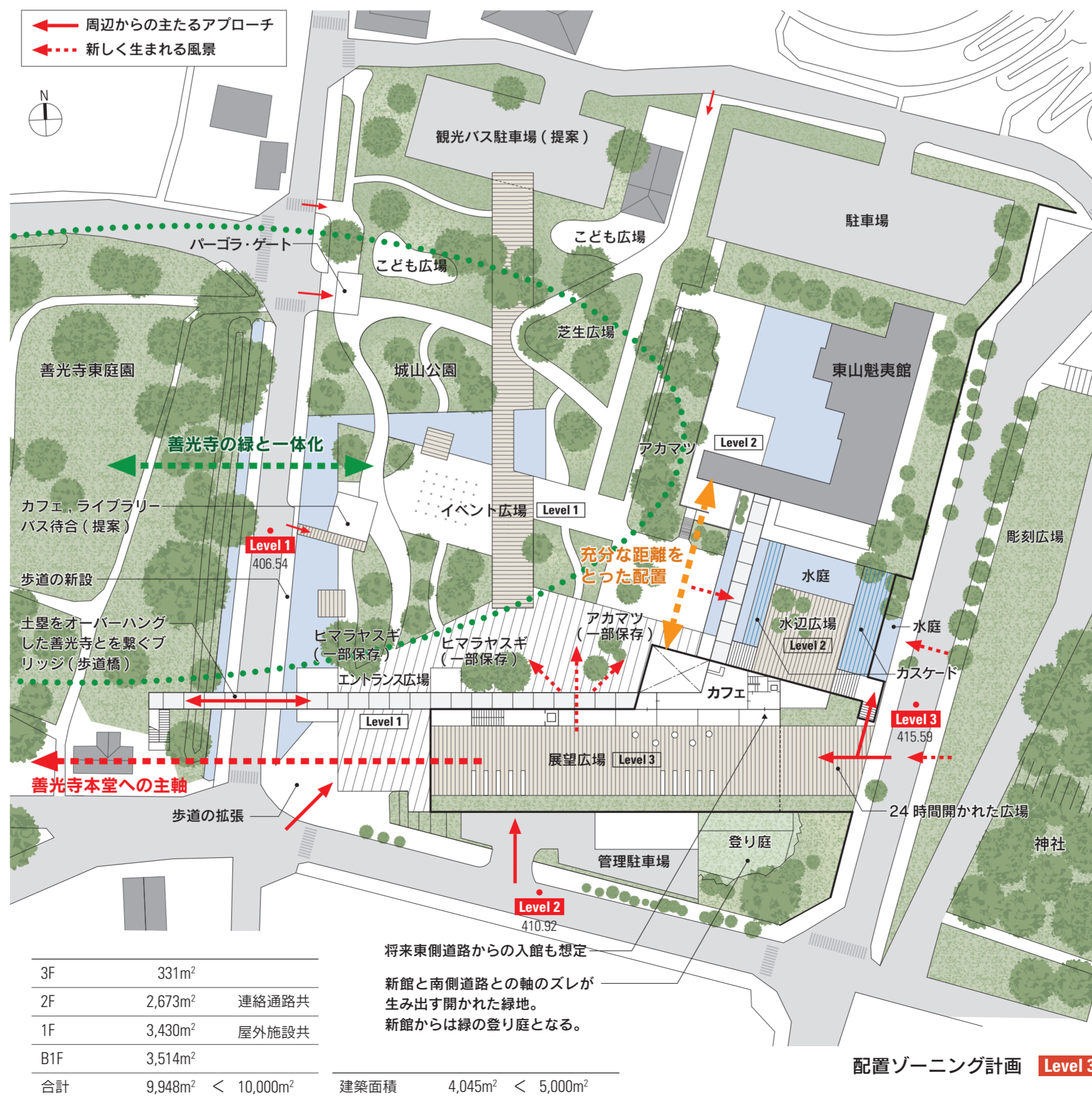
進化・成長する美術館

「時代の関心に応え、時代とともに歩む」ためには、美術館の企画や運営が非常に重要ですが、それを支えることができる「器」としての建築を提案します。

- 空間のフレキシビリティ**
展示室のフレキシビリティだけでなく、講堂や共用部などにも空間的融通性をもち、多目的な利用に柔軟に対応できる計画とします。
- 子供たちの創造空間**
将来を担う子供たちに、全身で創作活動ができるのびやかな空間を内外に提供し、障がいのあるなしに関わらずアートを通じ彼らの成長を見守ります。
- 最先端の観光施設**
気軽に入れる無料のパブリックゾーンや、居心地よく食事や喫茶ができる空間、美術情報を提供するライブラリーや視聴覚コーナーの充実、最新のミュージアムショップなど、アートをコンセプトに賑わいと経済効果をもたらします。
- 時間軸**
冬の期間が長いという気候の特徴を踏まえ、夕暮れの早い季節を想定し、施設全体を灯りの箱と見立てて暖かしの演出を図ります。同時に、ゾーニングにより、早朝開館や夜間開館などの部分利用も可能な計画としています。一方、建物の素材には、ロングライフあるいはエイジングによって価値が高まる素材を選択し、時間とともに成熟する建築を目指します。木材等は、県産材使用を前提とし、信州らしい個性のある空間をつくります。
- 意外な視点、発見の喜び**
収蔵庫の一部をガラス張りにしたり、保存、修復などの技術セクションを見せるなど、普段見ることのできない個所の公開も可能な計画とします。パブリックスペースや管理部門には、善光寺をはじめとする周辺景観を取り込む開口部を設け、敷地のもつ空間的な豊かさに触れることを可能にします。



今まで閉じられていた東側道路 - 城山公園 - 善光寺への連続性が可視化する



3F	331m ²	
2F	2,673m ²	連絡通路共
1F	3,430m ²	屋外施設共
B1F	3,514m ²	
合計	9,948m ²	< 10,000m ²

建築面積	4,045m ²	< 5,000m ²
------	---------------------	-----------------------

将来東側道路からの入館も想定
新館と南側道路との軸のズレが生み出す開かれた緑地。
新館からは緑の登り庭となる。

配置ゾーニング計画 Level 3



環境計画

展示・収蔵空間に高性能な設備的機能を持ち込むことは当然ですが、施設全体にあつては、独立した設備計画ではなく、建築およびランドスケープの特性を生かしたパッシブな「環境計画」として計画を行います。

- 建築計画と一体となったクール/ヒートトレンチ**
建物外周部に計画される擁壁空間や水景を利用して外気導入を行うことで、年間を通して外気負荷の低減を図ります。
- 地中熱利用（熱源/融雪）の検討**
寒冷地に強く、年間を通して安定した地中温度を利用した設備計画を検討します。
- 雨水/井水を利用した修景計画**
水景計画には、可能な限り上水使用を避けることで環境負荷の低減を図ります。